事例No.	2803
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	えどがわメティ普及会

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・人材確保・育成 ・組織改革

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

日本一インド人が多い街江戸川区で生産されたインドの野菜「えどがわメティ」で広がる多文化共生の輪

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



日本一インド人が多い街江戸川区で生産されたインドの野菜「えどがわメティ」で広がる多文化共生の輪

えどがわメティ普及会

DATA

事　例　名：日本一インド人が多い街江戸川区で生産されたインド野菜えどがわメティで広がる多文化共生の輪
所　在　地：東京都江戸川区北小岩6-48-1
連　絡　先：TEL 090-3533-6699
ホームページ：https://www.edogawa-methi.org

取り組みの概要

全国で最多となるインド人が暮らす江戸川区。国内では栽培例が少ないインドでメジャーな野菜「メティ」の生産普及活動が行われている。きっかけは多文化共生を目指し、ボランティア活動をする市民グループが、在住インド人との交流の中で聞いた「生のメティは日本では手に入らない」というつぶやきだった。「インド人が慣れ親しんだ故郷の野菜を、区内農家で生産したい!」この実現こそが真の共生社会を目指す姿であると「えどがわメティ」として、地域の新たな名産品になることを目指し、農家や仲間とともに取り組んでいる。

評価された点

●インド人コミュニティが拡大する江戸川区において、インドで親しまれた野菜の生産を行うことで、多文化共生時代のふるさとづくりに取り組んでいる点を評価。
●多文化共生のために在留インド人の視点を取り入れているユニークな取り組みである。押し付けるのではなく文化を理解しあうあり方は他自治体にとっても参考となる。
●国際的な共生社会を目指し、農家にインドの食材を生産してもらい地域の味として普及させようとするのは新たな地域ブランドの立ち上げ方法である。また、飲食業界にもメティを取り入れてもらい双方の食文化の交流がなされている点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ

・国内最多のインド人が暮らす江戸川区でメティをつくり、真の共生社会を実現したいと考える。

2017年

・インド地方で欠かせない野菜、「生のメティは手に入らない」というつぶやきを聞く。

2018年～

メティの栽培を思い立つ

・国内で流通しているのは種子の香辛料「フェヌグリーク」や乾燥の「カスリメティ」のみ。
・国内で生の栽培例が知られていないことから、東京都農業改良普及センターの協力を得て、栽培方法を模索する。



・JA東京スマイルなどが生産に協力的な農家を紹介。
・小松菜との連作障害がないことが分かり、生産に協力する農家が現れる。

2019年～

小松菜農家で本格的な生産開始、会正式発足

・区内3軒の農家で生産。農家「インド人が多い土地柄を生かした武器として新しい野菜の生産に取り組む」。普及会が正式発足。



・「えどがわメティ」として商標登録される。

2020年～2021年～

初の試食会、メティ商標登録される

・メニュー開発した地元学生、在住インド人、インド料理店が試食会に参加。えどがわメティが商標登録される。
・取り扱い店舗は口コミなどで広がっていく。







・江戸川区魅力発掘発信応援事業に認定。
・東南アジア、中国でも知名度がある為、多文化共生のツールとしてさらに活用。

2022年～

地域を巻き込んだ相互交流に発展

・区主催「環境フェア」などのイベントに出展。種子を配布するなどPR活動に取り組む。
・講演会「日本とインド文化を学ぶ」を主催。各種団体と食文化を通じた多世代の相互交流を図る。





2023年～

メティを使った初の料理教室

・区内在住中国出身の講師によるメティを使った餃子の料理教室を開催し、多文化交流を実現する。



今後の展望

・ひきこもりがちな高齢者を募り、メティの収穫作業に参加してもらう取り組み。
・在宅の外国人パートナーを呼びメティを使った菓子で茶話会(居場所づくり)。

受賞者のコメント

偶然「メティ」の収穫中に受賞の連絡を頂き、一緒に作業していた江戸川区の栽培委託農家の方と共に喜びを分かち合いました。栽培農家探しは「JA東京スマイル」、普及イベント活動は「なごみの家小岩」や「江戸川総合人生大学」、日本人向けのレシピ作成は「愛国学園短期大学」等々、さまざまなご協力を頂きながら活動しています。今後もメティを通じた「多文化共生・多文化交流による地域づくり」を目指して活動を推進してまいります。